

令和 8 年度における行動変容調査の 取組方針について

1. 通勤の行動変容調査

- 通勤の行動変容調査についてはこれまで、
 - ・ 令和6年度：琉球銀行、沖縄銀行、沖縄海邦銀行
 - ・ 令和7年度：沖縄セルラー電話、琉球大学（教職員）、浦添市、宜野湾市、豊見城市
 においてP I及び実証を行ってきたところ。
- 企業からは、公共交通機関利用時における通勤手当が満額（ただし最安経路）支給される地方公共団体においてまずは進めることが、金銭面以外の課題（制度面、運用面等）のあぶり出しや、個人個人の生活における小さな成果につながるのではないか、といった意見も寄せられるところ。
- また、地方公共団体については、地域における移動・交通に関する取組の司令塔としての役割も期待される存在であることを踏まえ、今年度についても地方公共団体を対象に、通勤の行動変容調査を実施する方針。
- また、地方公共団体の職員自らが率先して取り組むことはもとより、
 - ・ 旗振り役となって周辺の事業所・集客施設や来庁者といった地域の関係者を巻き込むこと
 - ・ 地方公共団体による移動・交通に関する施策とも連携して、相乗効果を発揮させること
 の2点を意識してスキームを構築し、地域一体の好事例を創出する。

方針A

通勤に係る制度・運用の改革

柔軟な働き方に資する
制度の本格実装・運用



方針B

地域の司令塔

周辺の事業所・施設や
来庁者の巻き込み



方針C

交通施策との連携

公共交通利用の
モデルケース創出

- 通学の行動変容調査についてはこれまで、首里高校、那覇西高校、コザ高校において実施。
- 生徒たちからは、取組の輪を広げる観点からは、学校ごとの対抗戦や大会のようなゲーム、日常の移動を変えることでの小さな気づきに関する写真展といった、関心の間口を広くとり、楽しく参加できる要素、身近な公共交通の現状を知らせる工夫があるといいのではないかとの示唆があった。
- また、気温が低く、日差しの強くない冬場なら実施できる一方で、夏場も含めて通年行うに当たっては、異なる課題があると感じるとの示唆もあった。
- 加えて、パーソントリップ調査でも明らかになったように、高校生に至る前の時点で、通学送迎が「当たり前」と認識される文化が形成されている実態もある。
- これらを踏まえ、今年度においては、以下の内容を盛り込んで実施することとする。
 - ・ So-SMARTプロジェクトのアプリを活用したゲーム&クイズ形式での学び&アバターへの愛着
 - ・ 初回のワークショップにおける「空想路線図」づくりを通じたバスを身近に感じる工夫
 - ・ 暑さの残る秋口での通学行動変容実証（実施に当たっては要調整・要相談）
 - ・ （スクールバスも持つ）中高一貫校への実施先の拡張（実施に当たっては要調整・要相談）

方針①

送迎によらない通学を身近で
楽しいものとするための工夫

ゲームやクイズ
「空想路線図」

方針②

季節によって異なる
日常移動の課題の抽出

暑さの残る季節
における実施

方針③

送迎によらない通学行動の
より年少期からの実践・定着

中高一貫校での実施

- 直轄調査において実施する通勤・通学の行動変容調査のほか、通勤や通学といった日常交通における公共交通利用促進や柔軟な働き方の実践等、既に各主体において実施されている取組や、今後取り組むことを検討しているものがあると認識。
(e.g.TDM施策、琉大キャンパスMaaS、ノーマイカーデーの実施、So-SMARTプロジェクト)
- これらの取組については、直轄調査の参考になるほか、アクションプラン等においても積極的に位置づけていきたいと考えている。
- このため、県民運動推進会議の構成員の皆様におかれては、今年度もこれらの取組に積極的に取り組んでいただくとともに、会議やWGの場等で前広に情報提供・共有をお願いしたい。

- 沖縄県立首里高等学校においては、複数年度にわたって、沖縄の交通課題の解消に向け、生徒たち自らが、公共交通利用、早朝通学といったライフスタイルの転換に自発的・自律的に取り組むとともに、シンポジウムでの発表、法定協議会への資料提出等を通じ、機運を醸成。
- これらの主体的な取組を通じて、一部生徒が公共交通政策に携わることを将来の目標としたり、生徒に触発された教員がバスでの通勤を始めてみたりするなど、着実に輪が広がっている。
- こうした功績に対し、(一社) 沖縄県バス協会からの推薦を受け、令和8年度陸運及び観光関係事業者沖縄総合事務局長表彰を行った。

実証参加や気付きを投稿する
LINEミニアプリプラットフォーム

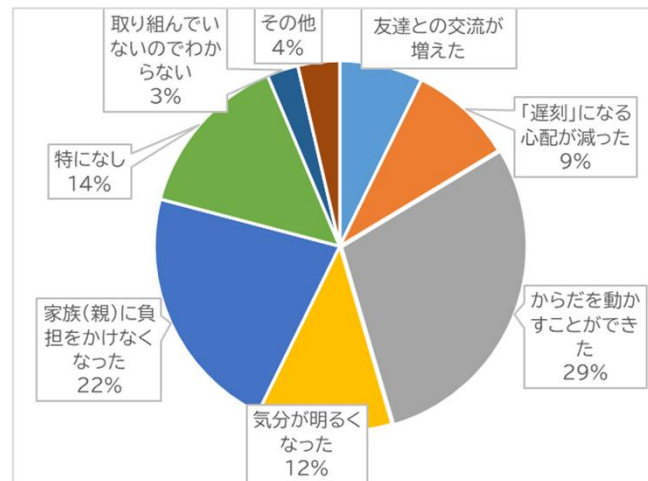


首里高校コアメンバーによる校内普及活動の様子



出所) 首里高校によるシンポジウム発表資料より抜粋

実証メニューに取り組んでみて良いと感じたこと
(首里高校におけるアンケート結果より抜粋)



首里高校コアメンバーからのメッセージ



表彰式の様子



- 自動車分担率を年齢階層別にみると、**25歳以下についても自動車分担率が4割を超えている。**
 - 子供を送迎している世帯のうち、平日に子供を送迎している方の割合は、保育所・幼稚園で約8割、小学校～高校で約6割程度と非常に高く、保護者の負担も大きい。
 - 送迎理由は、**遠い・通勤のついでに加え、中学生までは防犯・安全上の不安、高校では定時性など**が見られる。
- ⇒ 小中学生：学区があり（多くは徒歩自転車の圏内であり）**通学路や見守りなどの環境整備・構築**が必要。
- ⇒ 高校生：授業開始や終了時刻に合う路線バス等**公共交通網や自転車走行空間の整備**が必要。

